

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		子ども支援室 えがお					公表日	2026年 3月 20日	
		チェック項目	はい	いいえ	無記入	工夫している点	課題や改善すべき点		
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7						
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7						
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	2					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7						
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7						
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	5	1	1				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1	1				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7						
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。				外部の見学受け入れて内容等外部の視点を入れている	第三者評価の取り組みはしていない		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	5	2		他の後援会や研修案内を伝える	全員参加の設定をよゆうもって計画していく		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7						
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7						
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7			職員との見解がちがうこともあるが話し合っ て同じ方向支援を理想とする。			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7				個人情報管理に努めながら共有のパソコンを 考える		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		1				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7						
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	2		正規職業務になっている職員から意見を聴 いて反映	引き続き相談しながら行う 職員の育成に努める		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7			季節の企画を取り入れるようにしている			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7			高学年利用児童の時間の調整を考えて行っ ている	年齢に幅あるが引き続き少しの時間でも集団 でのゲームや取り組みを入れていく		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		1	午後しか来ないので話し合いに参加は難しい が意見あるかは聞いてくれる	勤務時間の違いを考えていく		

	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		1	午後しか来ないので話し合いに参加は難しい 意見あるかは聞いてくれる	ノートなどの活用していくことを考える
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7				正規職中心に他の職員とも共有する
	23	定期的なモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7				
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	7				
	25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7				
関係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			よく相談員は来ている。予定調整に難しさを感じる	相談員を中心に担当者会議は持たれた。 積極的に他の機関と共有していけるように声をかけて行く。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7				共有事項は関係機関と連携
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7			学校からの連絡をいただいたり保護者からも情報をいただいている。	保護者からの情報で学校での行事など把握できている。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7				訪問したり園との共有に努めている 放課後利用児童は同法人から移行
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	7				就労へはまだ過去に1人 次期高校3年になる児童は実習先など情報を保護者とも共有支援も必要に応じて対応
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	5			交流はできていない。 子ども連絡会の研修には参加 相談員や市の企画での事業所見学を受け入れている。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	5			施設に出かけることは多いが交流まではできていない
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	7				子ども連絡会には参加している
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7				日々の送迎時に様子や取り組みを簡単に伝えている
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5		2	個々の相談に対応集団は行っていない	カウンセリングの技法やペアレントトレーニングの学べる研修の実施
保 護 者 へ の 説 明 等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		1		契約時に説明、変更があったときには周知する
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7				保護者、関係機関との聞き取り情報をもとに作成
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7				懇談時に説明意見をいただく
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7				電話やラインにて相談を受けた時は迅速な対応を心がける。またケースによって情報を得る
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	5	2		個人からの相談が主で集団では行われていない。 参観日や母子通園など相談内容によって企画している。兄弟参加も受け入れている	参観日や保護者が施設に来ての交流を継続していく
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7				苦情がきたときは事実確認を速やかに行い対応していくようにさせていただきます
	42	定期的な通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	7				HPやインスタなどの整備 ラインの活動 個人情報に気を付けて取り組む
43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7				鍵付き書庫保管 取り扱い注意は朱書き	

	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7				絵カードや気持ちのカードなどの利用して児童の状況に応じ対応
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	2	2		地域に出ていく、見学の受け入れなどオープンにしている。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		1	訓練時等に読んでいるくらいになってしまう	ファイル化しておいてある。 要約してライン等で送るなどしていく 懇談等で説明周知していく
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		1		訓練の実施
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	7				対応が必要な児童がいるときは掲示する
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7			物を別にするなど徹底して対応した 教材の材料も保護者に成分を確認 主治医受診時に職員同行し、施設集団での注意事項を聞いた。安心につながった	対応が必要な児童がいるときは掲示する 注意項目を細かく記入し、細心の注意を求めている
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5		2		職員が危機管理できるように研修を入れる
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5		2	日々伝えることはない	プリントなどで周知
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7				記入する時間をつくる カンファレンス時に改善周知
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7				不適切な言葉になるのか、検証したりする。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7				計画懇談時に説明をする 身体拘束の認識の違いがあるので声を掛け合う	